

2020年 改訂版 波佐見町水道ビジョン

概要版

1. 水道ビジョン改定の趣旨と位置づけ

1. 1 改定の趣旨

水道事業を取り巻く状況は、全国的に人口減少・節水意識の浸透等により料金収入が減少傾向にある一方で、将来の持続的運営に必要な施設の老朽化対策のための投資費用の増加が見込まれており、経営環境は厳しさを増しています。また、その他に技術の継承が難しくなっている等の課題も顕在化してきており、これらの問題は、本町水道事業についても同様であると言えます。

そこで、本町水道事業では、このような課題に対応するため、厚生労働省の『新水道ビジョン(2013(平成25)年3月策定)』の施策課題である「安全」、「強靱」、「持続」の観点を踏まえ、2008(平成20)年度に策定した「波佐見町水道ビジョン」を改訂しました。

1. 2 位置づけと計画期間

本ビジョンは、2008(平成20)年度に策定した「波佐見町水道ビジョン」をもとに、本町の全体計画である「波佐見町まち・ひと・しごと創生総合戦略・波佐見町人口ビジョン」及び「第10次波佐見町基本計画」における方針や施策と整合を取りつつ、現状評価を踏まえた上で、新たに基本理念、理想像を明示するとともに、その実現に向けて今後10年間(2020~2029(令和2~11)年度)で取り組む具体的施策を示したものです。また、これらに加えて、財政状況を把握することで、本町独自の水道事業における計画としています。

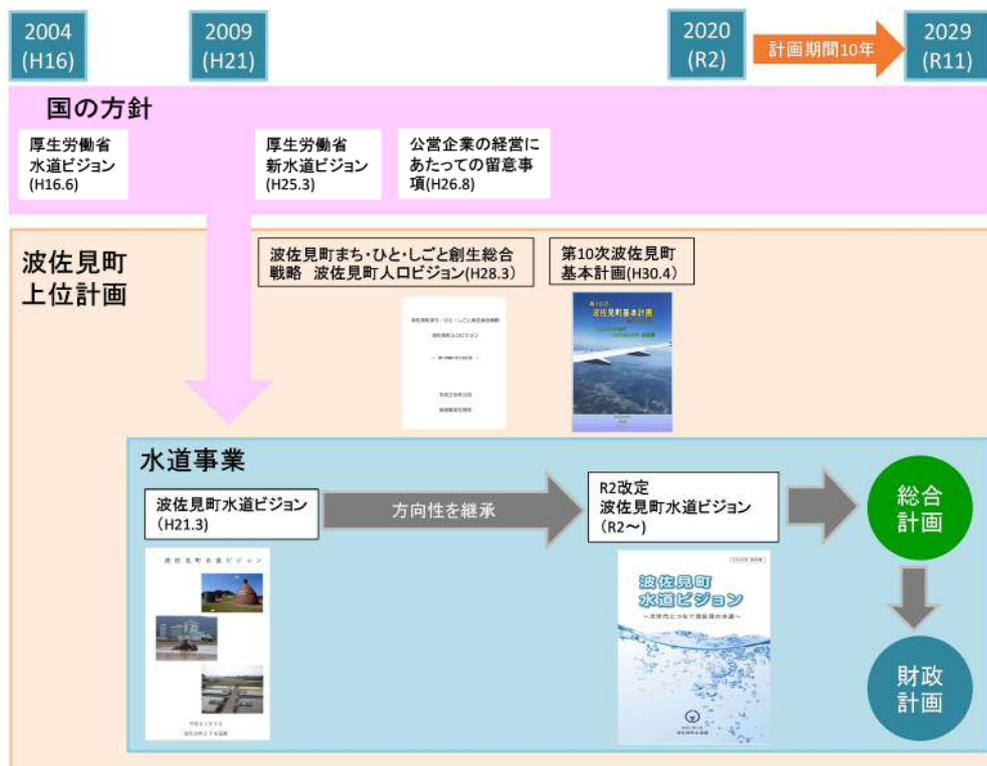


図1 波佐見町水道ビジョンの位置づけ

2. 水道事業の主な課題

2. 1 給水人口の減少

本町の行政内人口は年々減少しており、本町の水道普及率は99.7%（平成29年度時点）であることから、給水人口も同様に減少傾向にあります。

なお、水需要の減少は、水道料金収入の減少を意味しており、水道事業の運営に大きく影響するため、需要減少に応じた施設規模を見直すことも必要になります。

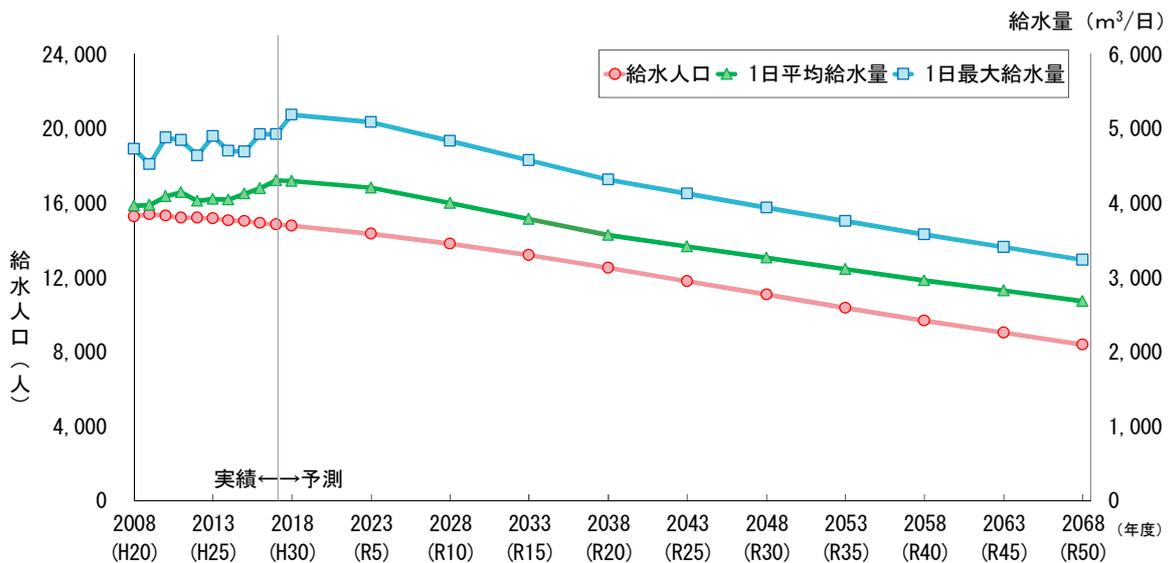


図2 給水人口予測

2. 2 料金収入の減少

本町の料金収入の見通しを、推計した有収水量に2018（平成30）年度実績の供給単価を乗じることにより、試算しました。

給水収益は、2021（令和3）年度まではほぼ横ばいで推移し、その後、給水人口の減少に伴い、給水収益も減少傾向となり、2039（令和21）年度には約2.3億円となる見通しです。一方、支出面では、将来において施設整備に伴う支出がさらに増加することも考えられるため、適正な水道料金水準を検証し、収支バランスを保つことが重要と考えています。

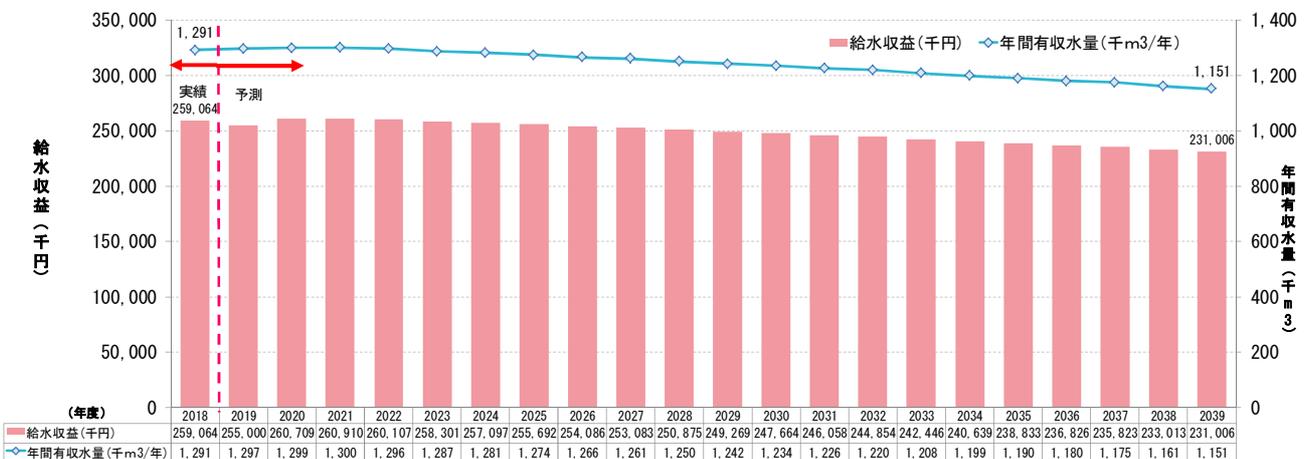


図3 料金収入の見通し

2.3 施設整備費用の増加

これまでも管路や設備の更新を進めてきましたが、今後、多くの水道施設で老朽化が進み、更新時期を迎えます。水道施設の資産には、その種別ごとに「法定耐用年数」が設定されており、更新時期の一つの目安になっています。仮に、現有する資産を全て法定耐用年数で更新する場合に必要な費用は、図4のとおりです。また、建築、土木施設は法定耐用年数で更新し、それら以外の設備は法定耐用年数の1.5倍の年数で更新する場合（長寿命化）でも、今後の更新費用は図5のようになります。なお、両グラフの1年目の費用が突出しているのは、法定耐用年数を超過している現有資産が存在するためです。

施設を長く使用することで整備費用を抑えることができますが、そのためには、施設の効率的な運転管理や点検調査により適切な修繕を行う必要があります。職員の確保や技術継承、修繕費の調整等も課題となります。

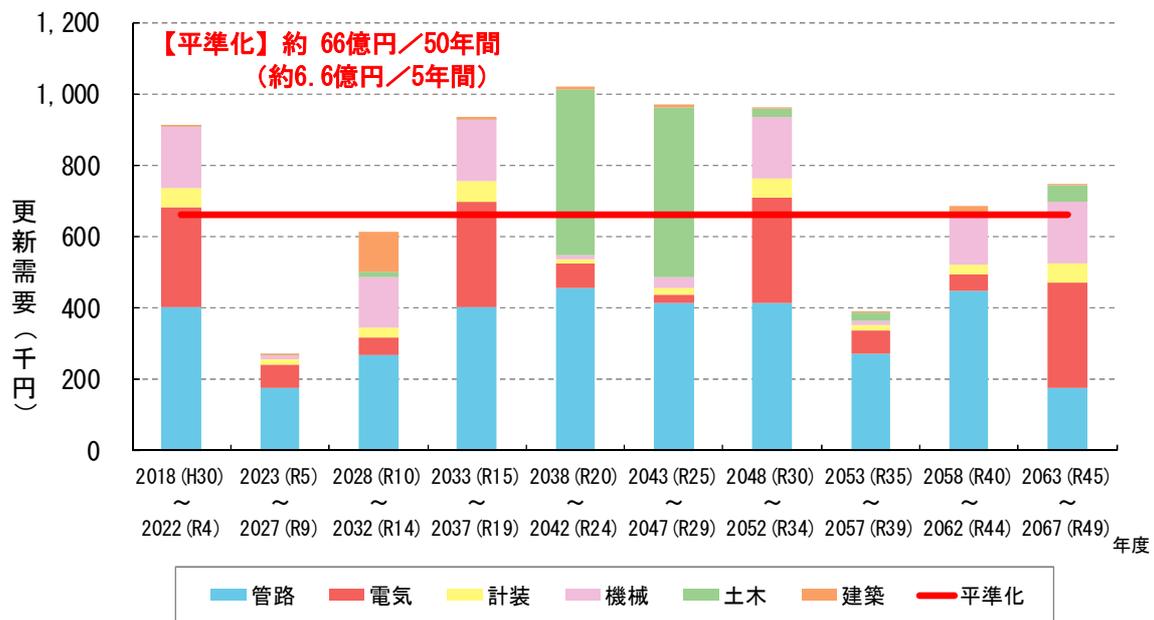


図4 更新需要（法定耐用年数での更新）

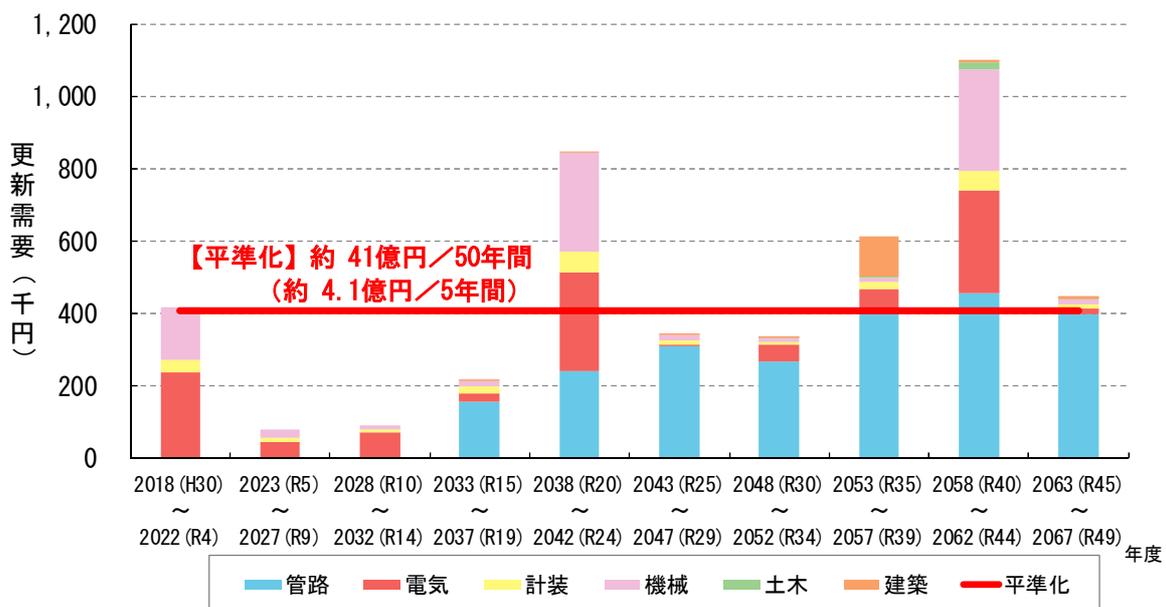


図5 更新需要（長寿命化での更新）

2. 4 財源の確保

本町水道事業の過去5年間の経営収支状況は黒字経営が続いていますが、純利益はおおむね減少傾向にあります。今後も、水需要量の減少に伴う収入の減少、老朽化施設更新費用の増加等により、純利益の減少がさらに顕著になることが予想されます。

以上を踏まえ、利用可能な既存施設の更新は先延ばしし、更新費用の抑制を図ったうえで、優先度の高い施設整備から実施する等、効率性の高い投資計画を作成しました。その投資計画に基づき、将来にわたって、持続可能な事業運営が可能であるか、財源確保の視点から企業債の借り入れや適正な水道料金の設定などを条件に財政シミュレーションを行いました。その結果、2030（令和12）年度には、収益的支出が収益的収入を上回り、赤字決算となる見込みとなりました。また、2031（令和13）年度には翌年度繰越額が0円となり、経営破綻となる厳しい予想となりました。

これを回避するために、水道料金改定を実施するとしてシミュレーションを行ったところ、図7のように、最短で2020（令和4）年度に20%、その後も複数回の料金改定が必要という結果になりました。

今後は、水道事業運営に必要なコストの縮減を図り、さらに必要な施策に積極的に取り組むことにより、町民の皆さんへの負担を可能な限り軽減できるよう、検討を重ねていきます。

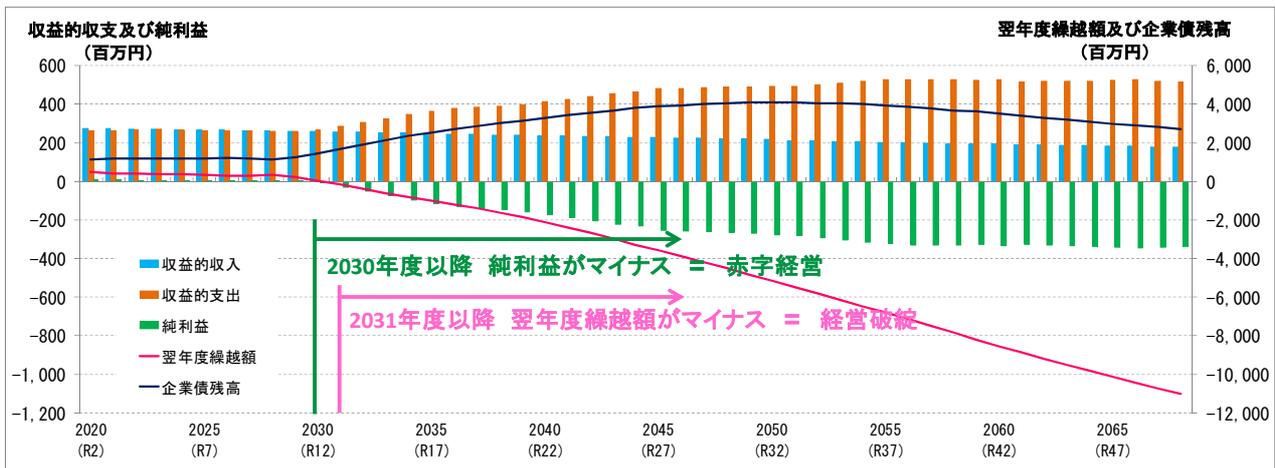


図6 財政収支の見通し（料金据置）

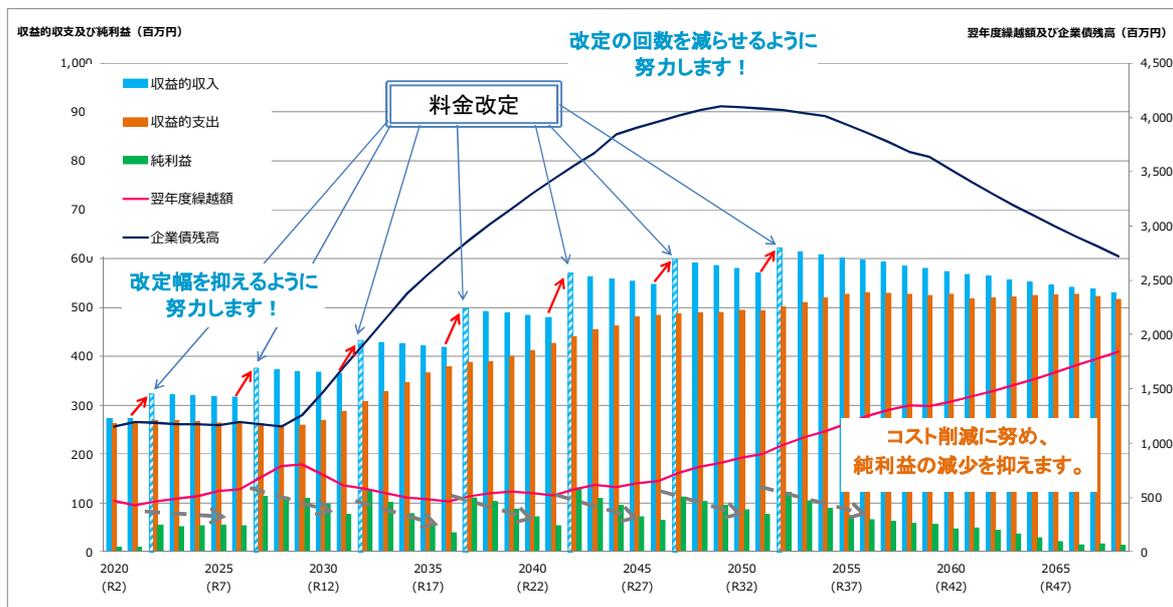


図7 財政収支の見通し（料金改定）

3. 波佐見町水道事業の基本理念と理想像

これからの水道は、取り巻く時代や環境の変化に的確に対応しつつ、50年後、100年後の将来まで、いつでも、どこでも、誰でも、安心して利用可能であり続けることを理想像とし、本ビジョンにおいては、基本理念を次のように掲げ、実現に向けて事業に取り組んでいきます。

次世代につなぐ波佐見の水道

【基本理念】

次世代につなぐ波佐見の水道

安全 ～安全・安心なおいしい水の確保～

町民の皆様が安心して快適に水を口にできるように、徹底した衛生管理を行うため監視、検査体制を強化する。

強靱 ～災害対策等の充実～

風水害や地震等の災害対策はもとより、老朽施設の更新を計画的、効率的に進め「いかなる場合においても水を供給する」を使命とする。

持続 ～水道の経営基盤の強化・顧客サービスの向上～

民間的経営手法等も取り入れた経営の効率化・健全化に努め、将来にわたり持続可能な安定した経営を実現するため、事業の運営基盤の強化、人材を含めた組織・体制の充実を図る。

4. 具体的施策とフォローアップ

本ビジョンにおいて目指す理想像を実現するために、計画期間で実施する具体的な施策を以下に示します。これからも安心して飲める水道水の提供を続けることに加えて、災害などの非常時にも生活に必要な水をできる限り届けられるように水道施設の耐震化を推進し、被害を最小限にとどめる強靱な水道を目指します。また、水道事業をこれからも継続できるように、経営の効率化と経費削減を行いながら、適正な料金について検討します。

各施策を着実に推進するために、PDCAサイクルを活用し、進捗管理に継続的に取り組みます。施策の進捗状況を短期、中期毎に、取り組みの方向性確認や、重点的方策の見直し検討を行い、適宜、本水道ビジョンのレビューと見直しを実施していきます。

